

西洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋史概論	イギリス史概論(1)	2	有光 秀行	3	前期 水曜日 3講時	ヨーロッパ史概論
西洋史概論	イギリス史概論(2)	2	有光 秀行	4	後期 水曜日 3講時	ヨーロッパ史概論
西洋史基礎講読	西洋史研究の基礎	2	浅岡 善治	3	前期 水曜日 2講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	西洋史研究の基礎	2	浅岡 善治	4	後期 水曜日 2講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	3	前期 火曜日 4講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	4	後期 火曜日 4講時	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史各論	「ユートピア」の系譜—アレクサンドル庭園のオベリスクの19人	2	浅岡 善治	6	後期 水曜日 3講時	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	古代ギリシアの経済と社会	2	杉本 陽奈子	3	前期 火曜日 2講時	ヨーロッパ史各論
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	5	前期 月曜日 4講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	6	後期 月曜日 4講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	スターリニズムの歴史的再検討	2	浅岡 善治	5	前期 木曜日 2講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	スターリニズムの歴史的再検討	2	浅岡 善治	6	後期 木曜日 2講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世後期ヨーロッパ史の研究	2	阿部 ひろみ	5	前期 水曜日 2講時	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世後期ヨーロッパ史の研究	2	阿部 ひろみ	6	後期 水曜日 2講時	ヨーロッパ史演習

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB33302, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史概論】

1. 授業題目：イギリス史概論 (1)
2. Course Title (授業題目) : British history (1)
3. 授業の目的と概要：近藤和彦『イギリス史 10 講』、岩波新書 (新赤版) 1464 をテキストにして、およそ中世末にいたるまでのイギリスの歴史を通観します。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The purpose of this course is to understand the British history from the prehistory to the 15th century.
5. 学修の到達目標：中世末にいたるまでのイギリス史の流れと、その主要なポイントを理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : The aim of this course is to understand the British history from the prehistory to the 15th century.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業全体の説明、テキスト第 1 講の 1 「イギリス史とは」 (1)
 2. テキスト第 1 講の 1 「イギリス史とは」 (2) テキスト第 1 講の 2 「自然環境と先史の人びと」 (1)
 3. テキスト第 1 講の 2 「自然環境と先史の人びと」 (2)
 4. テキスト第 2 講の 1 「ローマの文明」 (1)
 5. テキスト第 2 講の 1 「ローマの文明」 (2)
 6. テキスト第 2 講の 2 「部族国家、古英語、キリスト教」 (1)
 7. テキスト第 2 講の 2 「部族国家、古英語、キリスト教」 (2)
 8. テキスト第 2 講の 3 「ノルマン複合のなかのイングランド王国」 (1)
 9. テキスト第 2 講の 3 「ノルマン複合のなかのイングランド王国」 (2)
 10. テキスト第 3 講の 1 「ノルマン征服からアンジュ朝へ」 (1)
 11. テキスト第 3 講の 1 「ノルマン征服からアンジュ朝へ」 (2)
 12. テキスト第 3 講の 2 「イングランドとウェールズ、スコットランド」 (1)
 13. テキスト第 3 講の 2 「イングランドとウェールズ、スコットランド」 (2)
 14. テキスト第 3 講の 3 「百年戦争と黒死病」 (1)
 15. テキスト第 3 講の 3 「百年戦争と黒死病」 (2)、授業のまとめ
8. 成績評価方法：

授業受講状況 (毎回のコメントペーパーを利用) 50%、レポート 50%。
9. 教科書および参考書：

近藤和彦『イギリス史 10 講』、岩波新書 (新赤版) 1464、2013 年。参考書は教室で適宜指示する。
10. 授業時間外学習：毎回必ず授業前にテキストを下読みして予習し、また必ずテキストおよびノートを読み返して復習すること。さらに関連文献を読んで理解を深めることを強く要望します。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：西洋史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB43303, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史概論】

1. 授業題目：イギリス史概論（2）
2. Course Title (授業題目)：British history (2)
3. 授業の目的と概要：近藤和彦『イギリス史10講』、岩波新書（新赤版）1464をテキストにして、中世末から現代にいたるまでのイギリスの歴史を通観します。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to understand modern British history.
5. 学修の到達目標：中世末から現代にいたるまでのイギリス史の流れと、その主要なポイントを理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to understand modern British history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業全体の説明、テキスト第4講の1「1500年ころの世界とイギリス」
 2. テキスト第4講の2「主権国家と国教会」
 3. テキスト第4講の3「女王の伝説、等」
 4. テキスト第4講の4「大ぶりたんや国ぜめし帝王」
 5. テキスト第5講の1「論争的な17世紀」
 6. テキスト第5講の2「三王国戦争とピューリタン共和国」
 7. テキスト第5講の3「王制・国教会・議会の再建」
 8. テキスト第6講財政軍事国家と啓蒙
 9. テキスト第7講「産業革命と近代世界」
 10. テキスト第8講「大変貌のヴィクトリア時代」(1)
 11. テキスト第8講「大変貌のヴィクトリア時代」(2)
 12. テキスト第9講「帝国と大衆社会」(1)
 13. テキスト第9講「帝国と大衆社会」(2)
 14. テキスト第10講「現代のイギリス」
 15. 授業のまとめ
8. 成績評価方法：

授業受講状況（毎回のコメントペーパーを利用）50%、レポート50%。
9. 教科書および参考書：

近藤和彦『イギリス史10講』、岩波新書（新赤版）1464、2013年。参考書は教室で適宜指示する。
10. 授業時間外学習：毎回必ず授業前にテキストを下読みして予習し、また必ずテキストおよびノートを読み返して復習すること。さらに関連文献を読んで理解を深めることを強く要望します。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB33208, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：西洋史研究の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading for Researching European and American History

3. 授業の目的と概要：演習形式による文献講読を中心として、西洋史研究に関する入門的指導を行う。使用言語/テキストは主に日本語とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read Japanese texts about the European and American History with guiding some basic skills for historical research.

5. 学修の到達目標：専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To create the basic ability to read and comprehend specialized books/articles, and to learn some basic skills for academic researches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
- 2 歴史学とはいかなる学問か
- 3 歴史研究と史料(1)
- 4 歴史研究と史料(2)
- 5 課題発表(1)a
- 6 課題発表(1)b
- 7 課題発表(1)c
- 8 課題発表(1)d
- 9 専門論文の読み方(1)
- 10 専門論文の読み方(2)
- 11 課題発表(2)a
- 12 課題発表(2)b
- 13 課題発表(2)c
- 14 課題発表(2)d
- 15 中間的総括

8. 成績評価方法：

出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

9. 教科書および参考書：

資料等は、基本的にプリント形態で配布する。参考文献等は、授業の進行に合わせて随時紹介する。

10. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB43207, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目： 西洋史研究の基礎
2. Course Title (授業題目)：Introductory Reading for Researching European and American History
3. 授業の目的と概要： 演習形式による文献講読を中心として、西洋史研究に関する入門的指導を行う。使用言語/テキストは主に日本語とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to read Japanese texts about the European and American History with guiding some basic skills for historical research.
5. 学修の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To create the basic ability to read and comprehend specialized books/articles, and to learn some basic skills for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 夏季課題発表(1)
 2. 夏季課題発表(2)
 3. 資料・文献の探し方
 4. 課題発表(1)a
 5. 課題発表(1)b
 6. 課題発表(1)c
 7. 課題発表(1)d
 8. 学術論文の作法(1)
 9. 学術論文の作法(2)
 10. 課題発表(2)a
 11. 課題発表(2)b
 12. 課題発表(2)c
 13. 課題発表(2)d
 14. 総括
8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など) 70%
9. 教科書および参考書：

資料等は基本的にプリント形態で配布する。参考文献等は授業の進行に合わせて随時紹介する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

後期の講読は、前期からの継続的受講を前提としている。

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB32402, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学修の到達目標：英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ブリテン諸島史を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1回あたり.15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB42402, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史基礎講読】

1. 授業題目：英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：専門書・論文を読める英文読解力を身につけると同時に、西洋史研究についても理解を深めることを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

5. 学修の到達目標：英語で書かれた専門的論考の読解力を身につけ、西洋史研究への理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of the course are developing English reading skills to read articles and books on European and American history, and deepening understandings of European and American history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ブリテン諸島史を論ずるテキストを読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。1 回あたり 15 行くらいを読む予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (70%) と学期末翻訳レポート (30%)。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。

9. 教科書および参考書：

読むテキストのコピーを配布します。

10. 授業時間外学習：所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB63301, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：「ユートピア」の系譜—アレクサンドル庭園のオベリスクの19人
2. Course Title (授業題目)：The genealogy of utopianism：Nineteen Names on the Alexander Garden Obelisk
3. 授業の目的と概要：1918年、ロシアの革命政権は、クレムリン近くのアレクサンドル庭園にあるオベリスクの銘を、それまでのロマノフ朝の歴代皇帝の名前から、同政権がその先達とみなすヨーロッパの思想家・政治家19名の名前に書き換えた。この措置は、いわゆる「レーニンの記念碑政策」の一環であったが、新たな銘の内容からは「世界最初の社会主義政権」の自意識がはっきりと読み取れる。本講義では、それら19名の生涯と思想をほぼ年代順に取り上げ、ヨーロッパにおけるユートピア思想／社会主義思想の系譜を跡付ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to trace the genealogy of European utopian/socialist/communist thoughts through investigating lives and thoughts of nineteen pioneers on the Aleksander Garden Obelisk in Moscow.
5. 学修の到達目標：・近世以来のユートピア思想・社会主義思想の系譜から、近現代ヨーロッパ史の展開過程を把握する。
・ヨーロッパ近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp the outline of the modern/contemporary European history from the viewpoint of utopian and socialist thoughts.
・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about early modern/modern history of Europe.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス—本講義の趣旨と進め方について
 2. 「どこにもない」理想郷—トマス・モア
 3. 理想都市と終末論—トマゾ・カンパネッラ
 4. 「真正の平等」—ジェラルド・ウィンスタンリ
 5. 「すべての宗教は虚妄なり」—ジャン・メリエ
 6. フランスの「ユートピア的社会主義」—アンリ・ド・サン=シモン、シャルル・フーリエ
 7. フランス・アナキズム—ピエール=ジョゼフ・ブルードン
 8. ロシア・アナキズム—ミハイル・バクーニン
 9. 「科学的社会主義」の自負—カール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルス
 10. フランス急進社会主義—エドゥアール・ヴァイヤン
 11. ロシア「人民主義」—ニコライ・チェルヌイシェフスキー、ピョートル・ラヴロフ、ニコライ・ミハイロフスキー
 12. ドイツ社会主義—フェルディナント・ラサール、ヴィルヘルム・リープクネヒト、アウグスト・ベーベル
 13. 社会主義と世界戦争—ジャン・ジョレス
 14. 「ロシア・マルクス主義の父」—ゲオルギー・プレハーノフ
 15. 総括と展望
8. 成績評価方法：

期末試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用しない。個別的文献については、講義の進行に合わせて随時紹介していく。
10. 授業時間外学習：「各論」ながら講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

質問等は随時。
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：杉本 陽奈子

コード：LB32201, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史各論】

1. 授業題目：古代ギリシアの経済と社会

2. Course Title (授業題目)：Ancient Greek Economy and Society

3. 授業の目的と概要：本講義では、古代ギリシアにおける経済活動がいかなるものであり、ポリス社会がそこにどのように関与していたのかを学んでいく。その際、経済活動の担い手や古代経済の性格をめぐる研究史上の争点についても確認し、史料解釈にあたっての注意点についても理解していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course explains the ancient Greek economy focusing on the network of traders and bankers with the aim of understanding the nature of the Greek economy and the role of the polis.

5. 学修の到達目標：本講義では、古代ギリシアにおける経済活動について専門知識を深めると同時に、根拠となる史料の解釈について自ら主体的・批判的に思考することができるようになることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main purpose of this course is to understand the ancient Greek economy and learn the way to interpret the relevant sources.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 古代ギリシア世界とポリス
- 3 ポリス社会と身分
- 4 アテナイ民主政
- 5 顕彰決議
- 6 商業活動をとりまく環境
- 7 アテナイの穀物供給政策と商人
- 8 銀行業
- 9 商業従事者の社会的地位
- 10 職業イメージ
- 11 法廷とレトリック
- 12 法廷における証言と商業活動
- 13 商業裁判における証拠の利用
- 14 海賊行為
- 15 まとめ：商業活動を支えた諸要素

8. 成績評価方法：

授業内の小レポート (20%) + 期末レポート (80%) (=計 100%)

9. 教科書および参考書：

(参考書) 服部良久ほか編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』ミネルヴァ書房、2006年。

その他、授業内で適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：上に挙げた参考書を読み、古代ギリシア史に関する基礎的な知識を学んでおくこと。また、授業後には講義内容について復習し、授業内で紹介した参考文献に可能な限り目を通すこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB51404, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History
3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval Eu
5. 学修の到達目標：さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
通常授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ、以後は訳読と質疑応答です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。
9. 教科書および参考書：
オンライン公開されている、アングロ・サクソン時代の「野蛮人」を扱う論文を読む予定です。アクセス方法については初回に説明します。
10. 授業時間外学習：毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LB61404, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世ヨーロッパ史研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Medieval European History
3. 授業の目的と概要：中世ヨーロッパ史の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purposes of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research. Students are required to read and translate the text below, and also to write a report on medieval Eu
5. 学修の到達目標：さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are developing reading skills of articles and books on medieval European history, and learning deeply on historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
通常授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ(予定)、以後は訳読と質疑応答です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況(50%)とレポート(50%)。
9. 教科書および参考書：
奇数セメスターにひきつづき、アングロ・サクソン時代の「野蛮人」を扱う論文を読む予定です。アクセス方法については初回に説明します。
10. 授業時間外学習：毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB54210, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目： スターリニズムの歴史的再検討
2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: Stalinism Revisited
3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.
5. 学修の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 試訳の検討と討論 (1)a
 3. 試訳の検討と討論 (1)b
 4. 試訳の検討と討論 (1)c
 5. 試訳の検討と討論 (1)d
 6. 試訳の検討と討論 (1)e
 7. 小括 (1)
 8. 試訳の検討と討論 (2)a
 9. 試訳の検討と討論 (2)b
 10. 試訳の検討と討論 (2)c
 11. 試訳の検討と討論 (2)d
 12. 試訳の検討と討論 (2)e
 13. 小括 (2)
 14. 課題発表
 15. 中間的総括
8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：

Mark Edele, *Debates on Stalinism*, Manchester University Press, 2020; G・ギル『スターリニズム』内田健二訳、岩波書店、2004 年；横手慎二『スターリンー「非道の独裁者」の実像』中公新書、2014 年；中嶋毅『スターリンー超大国ソ連の独裁者』山川リブレット・人 089、2017 年。その他、演習の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LB64207, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目： スターリニズムの歴史的再検討
2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar in English: Stalinism Revisited
3. 授業の目的と概要： 演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read monographs about the modern/contemporary European history in English, and to guide basic skills for further historical research.
5. 学修の到達目標： 専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : To upgrade the ability to read and comprehend English text and to develop the basic abilities for academic researches.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
 2. 試訳の検討と討論 (1)a
 3. 試訳の検討と討論 (1)b
 4. 試訳の検討と討論 (1)c
 5. 試訳の検討と討論 (1)d
 6. 試訳の検討と討論 (1)e
 7. 小括 (1)
 8. 試訳の検討と討論 (2)a
 9. 試訳の検討と討論 (2)b
 10. 試訳の検討と討論 (2)c
 11. 試訳の検討と討論 (2)d
 12. 試訳の検討と討論 (2)e
 13. 小括 (2)
 14. 課題発表
 15. 総括
8. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：

Mark Edele, *Debates on Stalinism*, Manchester University Press, 2020; G・ギル『スターリニズム』内田健二訳、岩波書店、2004年；横手慎二『スターリン—「非道の独裁者」の実像』中公新書、2014年；中嶋毅『スターリン—超大国ソ連の独裁者』山川リブレット・人 089、2017年。その他、演習の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LB53206, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世後期ヨーロッパ史の研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Late Medieval European History
3. 授業の目的と概要：ドイツ語学術文献の訳読を通して、ドイツ語能力を高めると同時に、学術文献の読解力をつける。さらに文献読解に必要な事典等についての知識を習得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through reading academic theses in German, students will improve their German and learn the structure of the academic text. In addition, information about important handbooks and encyclopedias will be provided.
5. 学修の到達目標：ヨーロッパ史で卒業論文を作成する上で必要となる語学力・読解力およびその他の学術的知識を獲得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop their language ability and reading skills as preparation for writing the bachelor thesis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中世後期ヨーロッパに関するドイツ語の学術論文を参加者で順番に訳読する。参加者は担当箇所訳文を授業前に作成し、メールで提出する。授業ではその訳文を検討する。そのため、参加者全員が授業前にその日に読み進める箇所を読解しておくことが求められる。
学期の中間と最後には、ドイツ語テキストを日本語に訳出する課題が出される。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50 パーセント) と中間・期末課題 (50 パーセント)
9. 教科書および参考書：
授業には独和辞典を持参。その他事典等については授業中に適宜指示する。読解する文献は初回に配布する。
Please bring your German-Japanese dictionary to the class. The use of other dictionaries, handbooks and encyclopedias is instructed in the class. The German thesis will be provided to students at the first class.
10. 授業時間外学習：参加者全員が担当箇所以外の部分も含めて読解し、予復習しておくこと。
Students are required to prepare for and to review the class every week.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LB63207, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ヨーロッパ史演習】

1. 授業題目：中世後期ヨーロッパ史の研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Late Medieval European History
3. 授業の目的と概要：ドイツ語学術文献の訳読を通して、ドイツ語能力を高めると同時に、学術文献の読解力をつける。さらに文献読解に必要な事典等についての知識を習得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through reading academic theses in German, students will improve their German and learn the structure of the academic text. In addition, information about important handbooks and encyclopedias will be provided.
5. 学修の到達目標：ヨーロッパ史で卒業論文を作成する上で必要となる語学力・読解力およびその他の学術的知識を獲得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop their language ability and reading skills as preparation for writing the bachelor thesis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中世後期ヨーロッパに関するドイツ語の学術論文を参加者で順番に訳読する。参加者は担当箇所訳文を授業前に作成し、メールで提出する。授業ではその訳文を検討する。そのため、参加者全員が授業前にその日に読み進める箇所を読解しておくことが求められる。
学期の中間と最後には、ドイツ語テキストを日本語に訳出する課題が出される。
8. 成績評価方法：
授業参加状況 (50 パーセント) と中間・期末課題 (50 パーセント)
9. 教科書および参考書：
授業には独和辞典を持参。その他事典等については授業中に適宜指示する。読解する文献は初回に配布する。
Please bring your German-Japanese dictionary to the class. The use of other dictionaries, handbooks and encyclopedias is instructed in the class. The German thesis will be provided to students at the first class.
10. 授業時間外学習：参加者全員が担当箇所以外の部分も含めて読解し、予復習しておくこと。
Students are required to prepare for and to review the class every week.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：